

ひとりの
男が鹿兒島の病院へ旅
立って行く。

ここひと月は、焼酎以外のものを口にしていないから、骨が皮膚を破るかのごとくに、突きだしている。自力で立つこともままならず、周囲にいる青年達が男の下半身を支えていた。

「さーあーらーば、平島よ、また来る日ーまーあーでー」が、

「ラバウル小唄」のメロディーに乗って、水面を這うようにして船着き場に届くと、何人もの女

が、
美登利寿司

ほおかぶりにしていた

タオルを解いて、それを目頭に押しつけていた。

「かねて居る人が居らんごとくなれば、淋しかわい」

それはひとりの女がフツと洩らした感慨であった。このコトバには、狂気を隔離することも、封じこめること

も念頭に置いていない。ついひと月前、女の連れ合いが用事で隣り島に出かけて留守の晩、男の低い声が女の名前を連呼していた。

女は横になることもできずに、夜が明けるまで幼児を抱えて布団の上に座っていた。そんな迷惑をかけられてはいるが、荒神に憑かれた姿が哀れでならない。

男の中にたぎる遠島人の血が、現代の島のシヨ

ケン(世間)を揺さぶる。

六代続く血が荒神を呼び寄せることになったが、それは突発

事件ではない。島全体を巻きこんでの顛末を、音声と語りと映像で証していく。

会場はこちら

Photo: Eugène Atget

文化結社トカラ塾 第10回「ナオの南風語り」

あら おみ
荒神に誘われた仙之助

講師◎稲垣尚友 (竹大工・民俗研究家)

料金◎カンパ制 (任意)

連絡◎080-5085-2477 (当日のみ)

H P ◎<http://user.ecc.u-tokyo.ac.jp/~c080007/>

9/18(SAT)

15:00 START

会場◎ギャラリー GALA
世田谷区梅ヶ丘 1-26-5-2F
小田急線梅ヶ丘駅南口徒歩 1分
<http://www.ap.to/~gala/>

